

国立大学法人等 評価実務担当者説明会

令和元年7月30日（火）13：30～15：30

TKPガーデンシティ竹橋2階 大ホール

令和元年8月2日（金）13：30～15：30

梅田スカイビル タワーイースト36階 スカイルーム1



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

現況調査表作成について ーガイドラインを中心にー



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構



はじめに

「現況調査表ガイドライン」とは

- ・ 現況調査表を作成するに当たり、学系別に“指針”として示したもの
- ・ 当機構の国立大学教育研究評価委員会の下、11の学系別検討チームにより、各学問分野の特性を踏まえて協議の上、作成
- ・ 一般社団法人国立大学協会から当機構に寄せられた依頼文書（2019年5月16日付け）に基づき、学系別検討チーム等において依頼事項を検討し、各法人に混乱を生じることがないように配慮しつつ、反映

2



国立大学協会からの依頼文書

- ・ 国立大学協会では「国立大学法人における教育・研究の成果に係る評価検討会」を設置
- ・ 本検討会では、第4期中期目標期間における国立大学法人の教育・研究に関する客観的指標等の在り方について検討を重ね、「論点整理」として取りまとめ（2019年6月11日総会了承）
- ・ 今回の依頼文書は、この検討過程の中で、当機構の第3期教育研究評価のうち、特に学部・研究科等の現況分析について、ガイドラインに反映されるよう要望したもの

3



分析項目及び記載項目の概要①

- ・ 必須記載項目及び選択記載項目があり、選択記載項目は学系別に一部異なる

「教育の水準」の場合

分析項目	記載項目	
Ⅰ 教育活動の状況	必須記載項目	1 学位授与方針 2 教育課程方針 3 教育課程の編成、授業科目の内容 4 授業形態、学習指導法 5 履修指導、支援 6 成績評価 7 卒業(修了)判定 8 学生の受入
	選択記載項目	〇〇〇〇(学系別に一部異なる)
Ⅱ 教育成果の状況	必須記載項目	1 卒業(修了)率、資格取得等
	選択記載項目	2 就職、進学 〇〇〇〇(学系別に一部異なる)

4



分析項目及び記載項目の概要②

「研究の水準」の場合

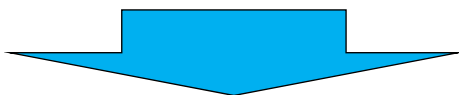
分析項目	記載項目	
Ⅰ 研究活動の状況	必須記載項目	1 研究の実施体制及び支援・推進体制 2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上 3 論文・著書・特許・学会発表など 4 研究資金
	選択記載項目	〇〇〇〇(学系別に一部異なる)
Ⅱ 研究成果の状況	必須記載項目	1 研究業績

5

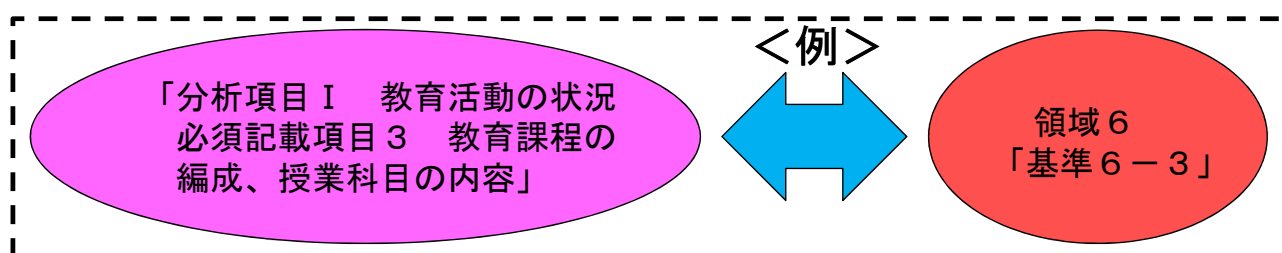


分析項目及び記載項目の概要③

文部科学省国立大学法人評価委員会の要請により、
当機構の大学機関別認証評価との関係を考慮



領域 6 「教育課程と学習成果に関する基準」の記載
内容との関係を考慮し、資料・データの共通化



6



分析項目及び記載項目の概要④

- 記載項目
「基本的な記載事項」及び「第3期中期目標期間に係る
特記事項」から構成
- 「基本的な記載事項」
当該記載項目を調査・分析するに当たり、必要と認め
られる記載事項
→ 根拠となる資料・データの提出のみ
(そのうち、一部を指標として分類)
- 「第3期中期目標期間に係る特記事項」
当該学部・研究科等の優れた取組及び特徴的な取組、
並びにそれらの成果を記載する事項

7



分析項目及び記載項目の概要⑤

〔参考〕分析項目ごとの水準判定

当機構の現況分析では、「第3期中期目標期間に係る特記事項」等から優れた点や特色ある点を抽出し、記載項目ごとの「基本的な記載事項」とともに4段階で総合的に判定

○ 判定に当たっての留意事項

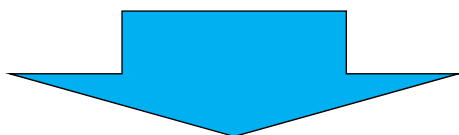
- ・ 学部・研究科等の目的に照らして、取組や活動、成果の状況がどの程度の水準にあるのかという視点で行う
- ・ 第2期中期目標期間終了時点と評価時点の水準の状況を勘案し、質の向上の状況も含めて行う

8



第3期現況調査表のコンセプト

各学部・研究科等の特長を明確に



- ・ 「基本的な記載事項」については、根拠となる資料・データを提示する形とし、現況調査表の本文ではコンパクトな記述
- ・ 「第3期中期目標期間に係る特記事項（各学部・研究科等の優れた取組や成果等）」については、現況調査表の本文において具体的かつ客観的な記述

9



基本的な記載事項の根拠となる 資料・データ

- ① 学部・研究科等が所有する、もしくは作成した資料・データ
- ② ガイドラインの様式に基づく資料・データ

提出
不要
機構
への

- ③ 大学ポートレートによるデータ分析集等
- ④ 政府公表データ

10



機構の現況分析における指標

- 根拠となる資料・データの一部を指標として分類し、指標を以下の3種類に区分
- 重要指標（◆）： 評価者が必ず活用する重要な指標
 - 分析指標（◇）： 評価者が必ず活用する指標
 - 参考指標（・）： 評価者が必要に応じて参考とする指標

11



データ分析集

- データ分析集とは、大学ポर्टレートシステムを通じて各法人が提出したデータに基づいて、算出する指標

(参考) 大学ポर्टレートとは、大学・短期大学ごとに、「教育上の目的等」、「入試」等の教育情報を公表するウェブサイト

○ 留意事項

- 指標を3種類に区分して評価するため、データの正確性については各法人で十分に確認を

12



政府公表データの活用

【学系共通】

入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）

【社会科学系】

法科大学院修了者の司法試験合格率（法務省公表）

【農学系】

獣医学課程卒業者の獣医師国家試験合格率（農林水産省公表）

【保健系】

医学課程卒業者の医師国家試験合格率（厚生労働省公表）

歯学課程卒業者の歯科医師国家試験合格率（厚生労働省公表）

薬学課程卒業者の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）

看護師課程卒業者の看護師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【教育系】

教員就職率（教員養成課程）（文部科学省公表）

正規任用のみの教員就職率（教員養成課程）（文部科学省公表）

教員就職率（教職大学院）（文部科学省公表）

正規任用のみの教員就職率（教職大学院）（文部科学省公表）

13



第3期中期目標期間に係る特記事項①

- 第3期中期目標期間における優れた取組及び特徴的な取組、並びにそれらの成果を記述

○ 留意事項

- 実績や成果（アウトプットやアウトカム）の内容を具体的かつ客観的に
- 第2期中期目標期間終了時点から評価時点までの変化を具体的かつ客観的に

※ 各法人独自のデータの使用も可
（ただし、その定義を明確にし、データ分析集等他のデータとの整合性を確認）

14



第3期中期目標期間に係る特記事項②

V 学系別の「基本的な記載事項」及び「第3期中期目標期間に係る特記事項」

1. 人文科学系

＜基本的な記載事項について＞ ・ 現状調査表の本文への記述に当たっては、文章の形ではなく、根拠となる資料・データを用いた形で記述すること。 ・ データ分析集等の指標については、機構が行う現状分析における3種類の区分（「◆」「◇」「○」）を「基準日／対象年度」欄の「」書きに記述し、「国立大学法人への問い合わせ」欄に「第3期中期目標期間に係る特記事項について」を記載する。 ・ 「キーワード」については、冒頭に「半角数字（もしくは半角英字）」、「（半角ピリオド）」を記述する際には、該当するキーワードのコードを文末に「」（半角角括弧）書きで付記を文末に付記してください。なお、これらのキーワードに対応する「第3期中期目標期間に係る特記事項」は、記載に当たっては必ずしも「第3期中期目標期間に係る特記事項」の記載を妨げるものではありませんが、必ずしも「第3期中期目標期間に係る特記事項」の記載を妨げるものではありませんが、必ずしも「第3期中期目標期間に係る特記事項」の記載を妨げるものではありません。	
※ 各分析項目には、選択記載項目「その他」が設定されています。「第3期中期目標期間に係る特記事項」を記載するに当たって、その記載項目は必ずしも該当しないという場合には、この選択記載項目を選択してください。なお、独自の記載項目を設定することはできません。	

すべてのキーワードに対応するよう「第3期中期目標期間に係る特記事項」を記述することを求めるものではない

【分析項目Ⅰ 教育活動の状況】

記載項目	＜基本的な記載事項＞※根拠となる資料・データによる活用を推奨。		第3期中期目標期間
	根拠となる資料・データ	基準日／対象年度	
必須1 学位授与方針	公表された学位授与方針	2019年度の5月1日現在	
必須2 教育課程方針	公表された教育課程方針	2019年度の5月1日現在	
必須3 教育課程の編成、授業科目の内容	体系性が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等）	2019年度	3.1：カリキュラム／教育プログラムの体系的な構築、教育プログラムの実施体制、教育目的に即した科目群の決定 3.2：社会ニーズに即した学位プログラム等の構築、社会課題や人材需要を踏まえた教育 3.3：学術動向に即した学位プログラム等の構築、学際的教育の推進 3.4：教養教育と専門教育の関わり 3.5：大学院のコースワーク 3.6：その他 ※例えば、外部資金を用いた新たな学位プログラム 【具体的な記載例】 社会的及び職業的自立に必要な能力を培うため、「大学生の就業力育成支援事業」の成果を継承する。全学共通科目に「キャリアデザインⅡ」を開設し、2016年度に10科目を新設し、2019年度には25科目まで増加している。[3.2] 2016年度に地域、企業等の学外において、学生が自主的に活動する教育効果を有する調査、交流、体験、研修等を通して、課題に取り組むフィールドワーク科目（8単位）を必修とし、2016年度に5科目を新設し2019年度には10科目まで増加している。[3.2]
	自己点検・評価において体系性や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料	2016～2019年度	
	研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等）（※大学院課程（専門職学位課程を除く。）が対象）	2019年度の5月1日現在	

該当するキーワードの番号を文末に付記

15



学系別に異なる様式

<【様式】研究活動状況に関する資料>

【様式】研究活動状況に関する資料（理學系）

		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
専任教員数					
著書数	日本語				
	外国語				
査読付き論文数	日本語	()	()	()	
	外国語	()	()	()	
その他					

理
学
系

※1 「専任教員数」については、各年度の5月1日現在の当該学部・研究科等に所属する研究活動を行っている専任教員（教授、准教授、講師、助教）の人数としてください。2019年度の専任教員数は、学部・研究科等ごとの「研究業績説明書」で求められる専任教員数と一致することになります。

※2 査読付き論文数については、内数として「筆頭著者」の数に記載してください。

※3 学会発表や「査読付き論文」に当たらない論文などとしてカウントしてください。

【様式】研究活動状況に関する資料（工学系）

		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
専任教員数					
著書数	日本語				
	外国語				
論文数	日本語	()	()	()	
	外国語	()	()	()	
作品等の数					
その他					

工
学
系

※1 「専任教員数」については、各年度の5月1日現在の当該学部・研究科等に所属する研究活動を行っている専任教員（教授、准教授、講師、助教）の人数としてください。2019年度の専任教員数は、学部・研究科等ごとの「研究業績説明書」で求められる専任教員数と一致することになります。

※2 論文数については、内数として「査読付き論文」の数に記載してください。

※3 学会発表などについては、「その他」としてカウントしてください。

学問分野の特性に配慮し、
学系別に異なる様式

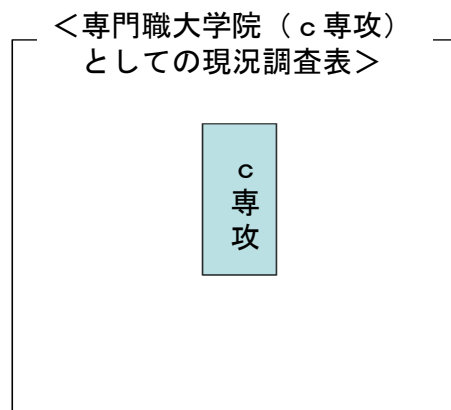
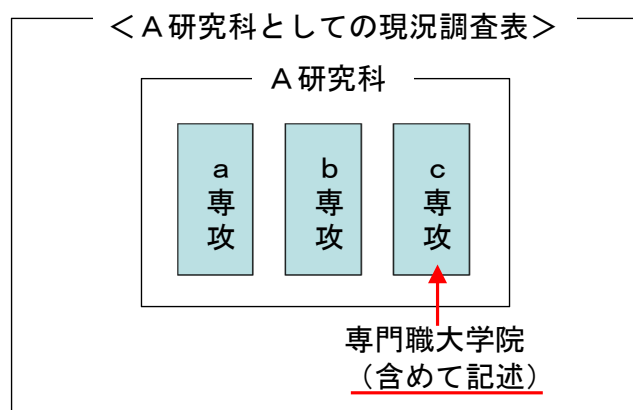
16



作成に当たっての留意事項①

【事項1】中期目標期間中に統合・改組を行った場合
→ 各法人において、旧組織からの継続性が高いと判断
する場合には、新組織に旧組織の内容を含めて記述

【事項2】専門職大学院が研究科の一専攻の場合

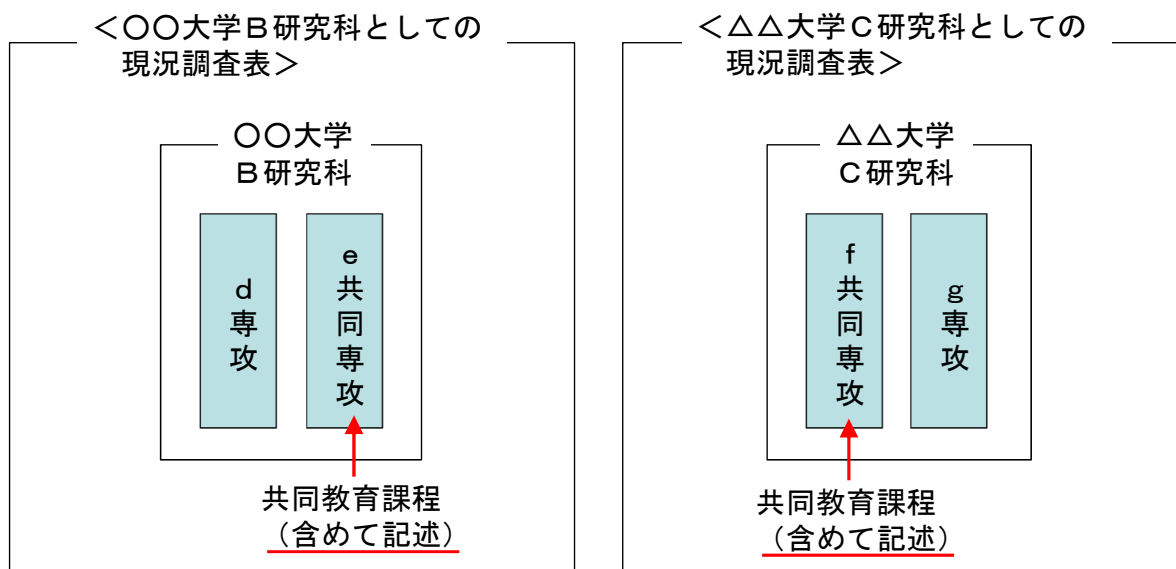


17



作成に当たっての留意事項②

【事項3】 共同教育課程の場合



18

達成状況報告書作成について (主なポイント)



独立行政法人

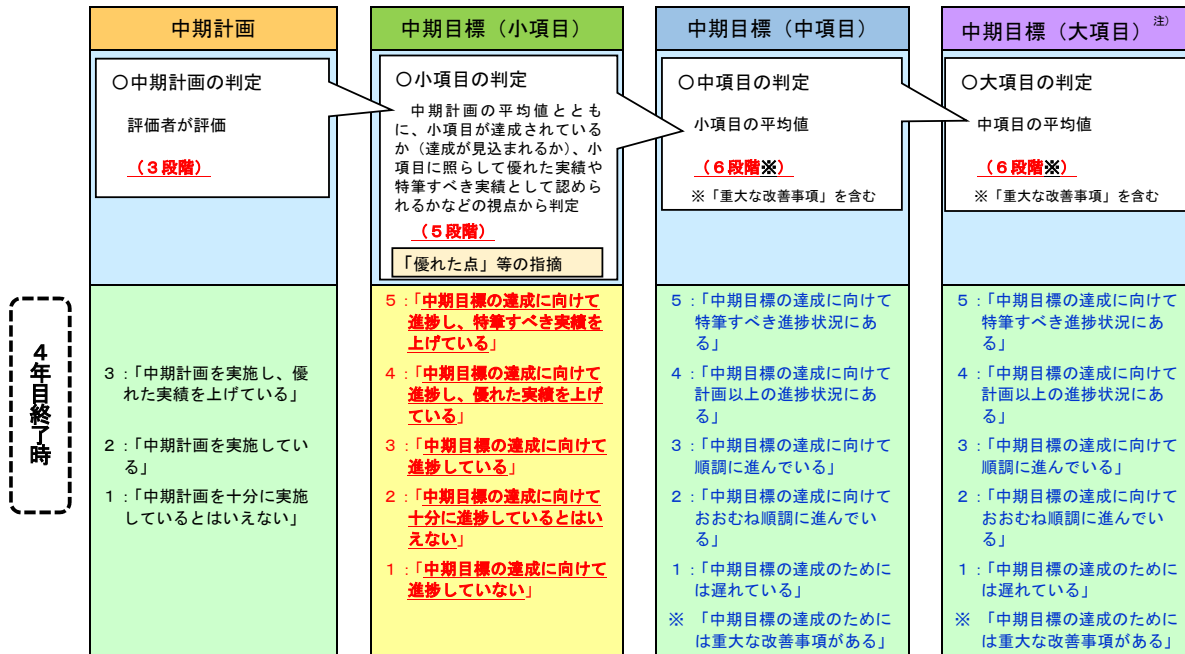
大学改革支援・学位授与機構

19



小項目の評価をより重視した仕組み①

【第3期中期目標期間 教育研究評価 4年目終了時の達成状況評価 判定イメージ】



注) 基準となる達成状況を4年目終了時は「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」に置く

20



小項目の段階判定における判断基準

＜中期目標（小項目）の判断基準（例）＞

－「中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている」の場合－

判定を示す記述	判断する考え方	判断の基準
中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている （【4】判定）	取組や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗し、かつ、優れた実績を上げていると判断される場合	○中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、 <u>中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる場合</u> その上で、次の2点を満たす場合 ・目安として平均値が2.5以上 ・ <u>優れた実績が認められる場合</u> ※「優れた実績」とは、「優れた点」や「特色ある点」を要素とし、以下の観点から総合的に判断 ① 教育研究の大きな質の向上 ② 個性の伸長への大きな寄与
中期目標の達成に向けて進捗している （【3】判定）	取組や活動、成果の内容からみて、中期目標の達成に向けて進捗していると判断される場合	○中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる場合

21



小項目の評価をより重視した仕組み②

- ・ 中期計画を3段階判定、小項目を5段階判定とし、各法人の具体的な中期目標が設定されている小項目の評価をより重視した仕組み
- ・ 小項目の判定では、中期計画の判定結果の平均値とともに、小項目（具体的な中期目標）が達成されているか（達成が見込まれるか）、小項目に照らして「優れた実績」や「特筆すべき実績」として認められるかなどの視点から行う

22



達成状況報告書の項目①

1 教育に関する目標（大項目）

（1）中項目1－1「教育の内容及び教育の成果等」の達成状況の分析

〔小項目1－1－1の分析〕

小項目の内容	~~~~~ ~~~~~ ~~~~~。
--------	--------------------------

○小項目1－1－1の総括

≪関係する中期計画の実施状況≫

『小項目の総括（本文）』

実施状況の判定	自己判定の内訳（件数）	うち◆の件数※
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	1	0
中期計画を実施している。	2	1
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	1	0
計	4	1

※◆は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~。

個々の中期計画における実績を踏まえ、総体として、小項目（具体的な中期目標）をどの程度達成しているかを記述するものです。その際、単に個々の中期計画の実績の良否だけでなく、それらの実績間の関連も含めて総括して記述してください。

23



達成状況報告書の項目②

○実施状況（中期計画 1-1-1-1）

(A) ~~~~~
~~~~~  
~~~~~。

(B) ~~~~~
~~~~~  
~~~~~。個々の中期計画における実績を小項目（具体的な中期目標）の達成という観点から記述するものです。その際、単に中期計画でいかなる実績があがったかを記述するのではなく、その実績がどのような意味で小項目の達成に貢献したのかという観点から記述してください。

「実施状況」と「実施予定」の箇条書きの冒頭に付す (A) (B) …は、内容をそれぞれ対応させてください。

○小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1-1-1-1）

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~。

○2020 年度、2021 年度の実施予定（中期計画 1-1-1-1）

(A) ~~~~~  
~~~~~  
~~~~~。

(B) ~~~~~  
~~~~~。

24



達成状況報告書の項目③

○特記事項（小項目 1-1-1）

(優れた点)

• ~~~~~
~~~~~  
~~~~~。(中期計画 1-1-1-1)

(特色ある点)

• ~~~~~
~~~~~。(中期計画 1-1-1-2)

(今後の課題)

• ~~~~~  
~~~~~  
~~~~~ (1-1-1-3)

小項目の判定において、「特筆すべき実績」または「優れた実績」として認められるかどうかを判断する要素とする

25



## 特記事項「優れた点」及び 「特色ある点」の抽出

---

- ・ 小項目に照らして、達成状況報告書における該当する各中期計画の「実施状況」欄及び「小項目の達成に向けて得られた実績」欄に記載された、法人の取組や活動、成果の状況から「優れた点」及び「特色ある点」を抽出
- ・ 「優れた点」及び「特色ある点」については、小項目の判定において「特筆すべき実績」または「優れた実績」として認められるかどうかを判断する要素とする

26

## 研究業績説明書作成について



独立行政法人

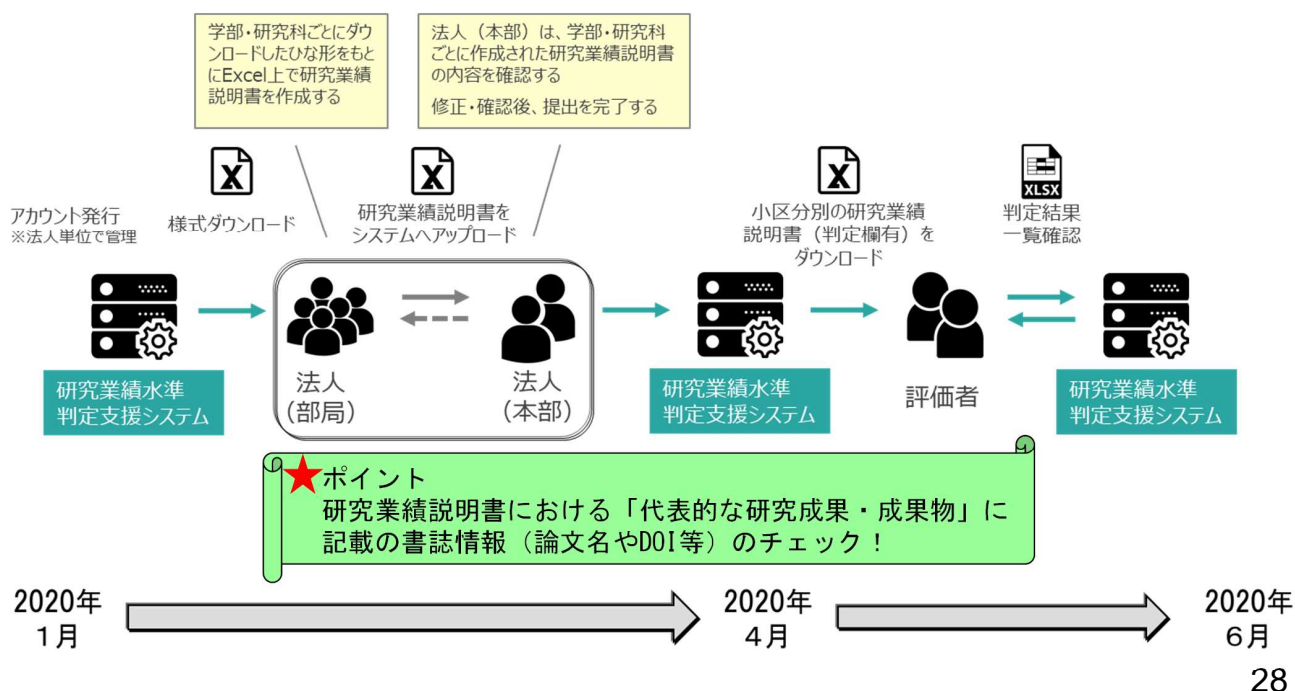
大学改革支援・学位授与機構

27



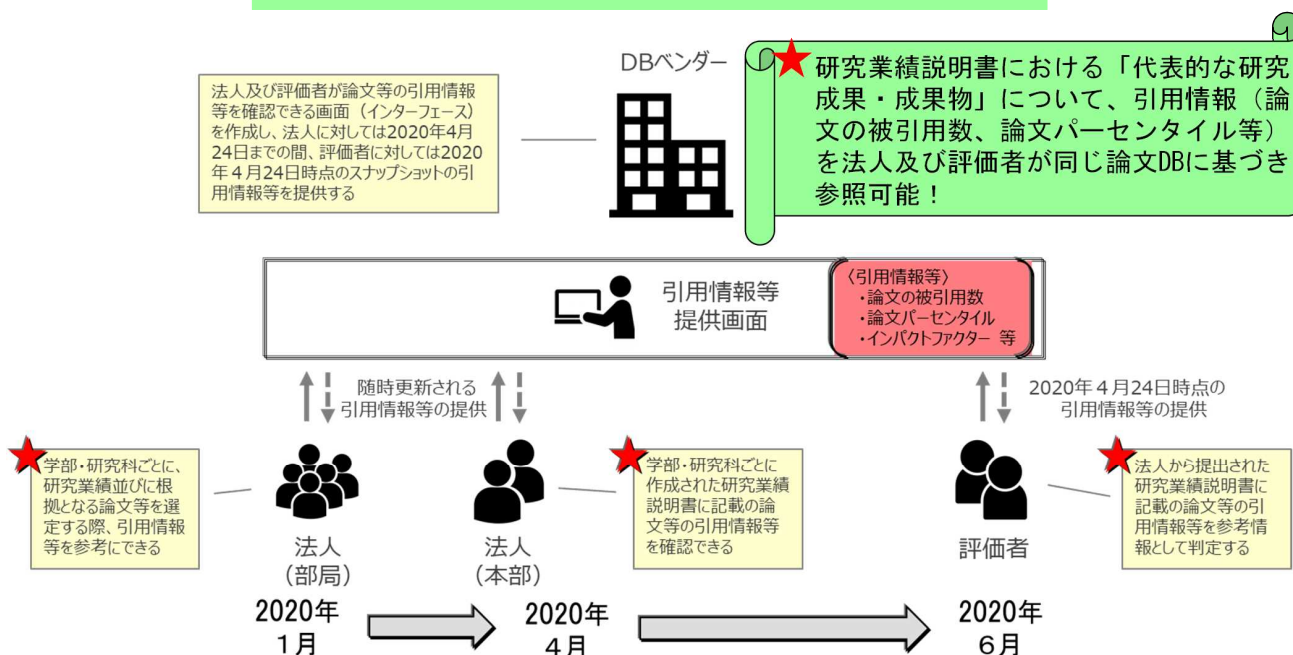
## システムの導入①

### 研究業績水準判定支援システムのイメージ



## システムの導入②

### 引用情報等提供システムのイメージ





## 二つのシステム導入のポイント

---

- ① 研究業績水準判定支援システムの導入により、各法人は研究業績説明書における書誌情報（論文名、DOI等）をより正確に作成・提出することが可能
- ② 引用情報等提供システムの導入により、各法人はその時点での最新の引用情報等（論文の被引用数、論文パーセンタイル、IFまたはIPP等）を参照でき、評価者には一律、2020年4月24日（金）時点の引用情報等を参考情報として提供

30



## 作成に当たっての留意事項①

---

- ・ 選定できる研究業績数は、各学部・研究科等の専任教員数の原則20%を上限  
→ 選定に際しては、第三者評価による結果や客観的指標等の根拠資料を基に、優れた研究業績として判断されるものを厳選
- ・ 代表的な研究成果・成果物は最大3つまで
- ・ 二つのシステムに「研究業績説明書」のデータを取り込むため、様式の変更は不可（行の高さの変更等は可）

31



## 作成に当たっての留意事項②

| 第3期 研究業績説明書 イメージ                                                                                     |    |     |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |   |          |            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|----------|------------|
| 法人番号<br>①                                                                                            | XX | 法人名 | 〇〇大学 | 学部・研究科<br>等番号 ②                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | X | 学部・研究科等名 | 〇〇学部・〇〇研究科 |
| 1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】 ⑤                                                              |    |     |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |   |          |            |
| <p>本学部・研究科は、~~~~~という<br/>目的を有しており、~~~~~<br/>~~~~~であり、~~~~~<br/>それらを踏まえ、~~~~~<br/>基準で研究業績を選定している。</p> |    |     |      | <p><b>分析項目Ⅱ 研究成果の状況</b><br/> <b>&lt;必須記載項目1 研究業績&gt;</b><br/> <b>【基本的な記載事項】</b><br/>           ・ 研究業績説明書</p> <p><b>【現況調査表 イメージ】</b></p> <p>(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)</p> <p>本学部・研究科は、~~~~~と<br/>~~~~~という目的を有しており、~~~~~<br/>~~~~~の特色がある。したがって、<br/>~~~~~という点が最も重要であると考えている。ま<br/>た、~~~~~であり、~~~~~<br/>~~~~~であるため、~~~~~<br/>~~~~~という点も考慮している。それらを踏まえ、~~~~~<br/>~~~~~という判断基準で研究業績を選定している。</p> |   |          |            |

同じ内容を記載  
(そのままコピー)

32

## 連絡事項 —今後のスケジュール—



独立行政法人  
大学改革支援・学位授与機構

33



## 今後のスケジュール①

---

- 国立大学法人等評価実務担当者研修会
  - ・ 10月下旬～11月下旬
  - ・ ブロック別に開催
  - ・ 詳細未定のため、決定次第、連絡
  
- データ分析集・入力データ集
  - ・ 2016年度～2019年度（員数）分については、予定どおり12月に提供の見込み
  - 提供の際には、新システムに移行の上、新指標の追加、新しいレイアウトに変更（ただし、2019年9月～10月に予定していたデータ確認の作業時期は遅れる見込み（別途、連絡予定））

34



## 今後のスケジュール②

---

- 研究業績説明書作成に係るシステム
  - ・ 2020年1月から稼働開始予定
  - ・ 引用情報等提供システムも同時に稼働開始予定

※ 実績報告書提出に関する事務連絡については、年内に通知予定

35

## ※スライド資料の修正について

東京会場で配布したスライド資料について、以下2点の誤りがありましたので修正いたしました。

・8ページ

【誤】～とともに、以下の区分により4段階で～

⇒【正】～とともに4段階で～

・34ページ

【誤】～新システムに移行に上、新指標の追加～

⇒【正】～新システムに移行の上、新指標の追加～

---